

相模湾における稀種アマシイラ（スズキ目アマシイラ科）の記録

崎山 直夫・瀬能 宏

Tadao Sakiyama and Hiroshi Senou: Records of a Rare Fish Species,
Luvarus imperialis (Perciformes: Acanthuroidei: Luvaridae),
from Sagami Bay, Japan

Abstract. An adult louvar (1536 mm TL), *Luvarus imperialis* was stranded on a beach (35°18'09.858"N, 139°28'56.094"E) of Enoshima Island, Sagami Bay, on 8 October, 2015. This is the first adult and the third specimen of the species recorded from the bay; two juvenile specimens were reported in 1974. Morphometric and meristic data are provided.

アマシイラ *Luvarus imperialis* Rafinesque, 1810 (スズキ目 Perciformes: アマシイラ科 Luvaridae) は、形態と系統解析からニザダイ亜目に分類される 1 科 1 属 1 種の魚である (Tyler *et al.*, 1989)。稚仔期から成魚に至るまでの間、著しい変態をすることが知られている (中村, 1984)。

本種は、全世界の暖海域に分布し、水深 1000m 以上の外洋域に生息する。国内では北海道 (Ueno, 1965; 上田ほか編, 2003)、青森県泊 (塩垣, 2004)、岩手県 (松原, 1955; 丸山, 1971)、宮城県沖 (Abe, 1953)、相模湾 (Abe and Kobata, 1974)、伊豆諸島 (倉田・三村, 1964)、紀伊半島 (蒲原, 1950) から記録がある。

筆者らは相模湾の魚類相を明らかにする目的で魚類の標本や画像の収集を継続しているが、2015 年 10 月、相模湾内の江の島近くに漂着したアマシイラを回収し、標本にする機会を得た。相模湾における本種の記録は先にあげた 1 報告のみである (Senou *et al.*, 2006)。Abe and Kobata (1974) では 2 個体の幼魚標本について報告しているため、今回が成魚の相模湾からの初記録となり、標本としては 3 個体めとなる。本種は標本を得る機会が少ないため、計数・計測値を示し報告する。

材 料

2015 年 10 月 8 日に、江の島～片瀬東浜間の浅瀬に本個体が漂着していたのを一般市民が発見し、新江ノ島水族館に情報が寄せられた (図 1, 2)。筆者のひとり崎

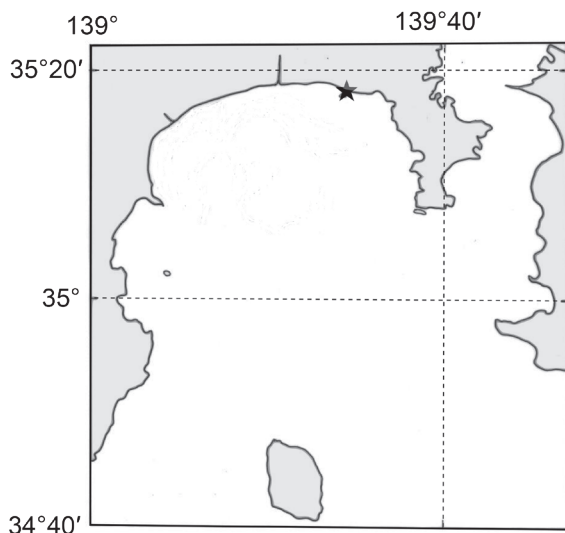


図 1. アマシイラ *Luvarus imperialis*, KMP-NI 39783 の採集場所 (★印)。



図 2. 江の島近くの浅瀬に漂着したアマシイラ *Luvarus imperialis*, KMP-NI 39783 (=KPM-NR 163417N) 左が江の島大橋。正面が片瀬東浜。

山が現場で確認し、地元漁業従事者の協力を仰ぎ、江の島湘南港まで曳航し引き上げた。その後、神奈川県立生命の星・地球博物館に移送し冷凍した。同年 10 月 18 日に解凍、計測・計数を行ったうえで、鮮時の画像を撮影した。10 %中性ホルマリンで固定した標本は、同館魚類標本資料 KPM-NI 39783 として登録した。画像資料については、鮮時の色彩を記録したものを同館魚類写真資料データベースの画像資料 KPM-NR 108977A～Z と KPM-NR 108978A～H に分割登録した（撮影者は瀬能）。漂着状況についての画像は KPM-NR 163417A～R として登録した（撮影者は崎山）。

計測・計数方法

計測・計数方法は中坊（2013）に準拠した。計測には、スナップキャリパー（1000 mm）および通常のノギス（200 mm）を用い、10 分の 1 mm の精度で計測した。以下、測定箇所について補足する（測定箇所の前の数字は表 1 に対応）。3 Body length：吻端から尾鰭上の模様の境目まで（図 3 尾鰭上の点）；6 Eye diameter：眼の開口部；23 Caudal peduncle width：尾柄幅（最大幅）；24 Caudal peduncle depth b：23 で計測した部分の尾柄高。色彩の記載は、財団法人日本色彩研究所監修（1993）に準拠した。

アマシイラ

Luvarus imperialis Rafinesque, 1810

（図 3；表 1, 2）

記載

形態：計数・計測値を表 1, 2 に示した。

口は小さく、やや伸出が可能。上顎は下顎より長い。両顎に歯はない。眼の位置は低く、口の後方にある。額から背部にかけて突出する。体高は高く、側扁する。鰓膜が峡部と癒合する。体の鱗は微小。背鰭起部は胸鰭後端よりも後方にある。胸鰭は長く、畳むと体側のくぼみ

表 1. アマシイラ *Luvarus imperialis* KMP-NI 39783 の計測値

	KPM-NI 39783 (mm)
1 Total length	1536.0
2 Fork length	1520.0
3 Body length	1453.0
4 Head length	350.3
5 Snout length	120.7
6 Eye diameter	40.9
7 Interorbital space	130.0
8 Upper jaw length	64.1
9 Postorbital length	192.6
10 Prepectoral length	357.1
11 Prepelvic-fin length	398.0
12 Prepelvic-fin length	394.0
13 Preanal length	417.0
14 Predorsal-fin length	795.0
15 Preanal-fin length	750.0
16 Length of dorsal-fin base	509.0
17 Length of anal-fin base	518.1
18 Length of pectoral-fin base	46.3
19 Length of pelvic-fin base	15.0
20 Tail length	226.5
21 Body depth	474.0
22 Caudal peduncle depth a	45.5
23 Caudal peduncle width	95.0
24 Caudal peduncle depth b	68.8
25 Body width	250.0

に収納される。腹鰭は軟条が消失し、左右の棘条が合着して 1 本の棘になる。背鰭は 1 基で体の後半部で臀鰭と対在する。肛門は左右の腹鰭の間に位置する。体は臀鰭起部直上から後方が急激に細くなる。尾柄は細く、左右には大きな隆起縁がある。尾鰭の後縁はわずかに湾入する。



図 3. アマシイラ *Luvarus imperialis*, KMP-NI 39783, 全長 1536.0 mm. 矢印で示した白点が体長の測定位置。

表 2. 相模湾で採集されたアマシイラ *Luvarus imperialis* の計数値

	Abe and Kobata(1974) August 21, 1963 Off Manazuru	Abe and Kobata(1974) August 18, 1973 Off Komekami	KPM-NI 39783 October 8, 2015 Enoshima
Total length	300 mm	260 mm	1536.0 mm
Counts:			
1 Total number of vertebrae	21	21	—
2 Dorsal-fin rays	22	22	I, 13
3 Pectoral-fin rays	I, 18 or I, 19	I, 18 or I, 19	18
4 Pelvic-fin rays		I, 3	I
5 Anal-fin rays	18	18	I, 13
6 Caudal-fin	7+7	7+7	
7 Gill rakers	—	—	12+1+11

体色：全体は青みを帯びた銀白色で、背側は黒ずみ、腹側は白い。胸鰭、腹鰭、臀鰭の前部、尾鰭はほぼ全体が赤く、背鰭と臀鰭の棘は赤い。背鰭と、臀鰭の前部を除く鰭膜はそれぞれ付近の体色に似る。尾柄と尾鰭の基部、尾鰭の前縁は黒ずむ。

備 考

本研究に用いた標本は、口は小さく、やや伸出が可能、体の鱗は微小、肛門は左右の腹鰭の間に位置する、背鰭起部は成魚では胸鰭後端よりも後ろ、成魚では腹鰭は軟条が消失し左右の棘が癒合して1棘になるという特徴からアマシイラ *Luvarus imperialis* に同定された(中坊・土居内, 2013)。

本種は、全世界の暖海域に分布し、国内でも広く記録があるものの、稀にしか見られない(岡田・松原, 1938; Abe, 1953; 倉田・二村, 1964; Ueno, 1965)。相模湾では1963年8月21日に真鶴で全長300 mmの個体が、1973年8月18日に米神で全長260 mmの個体がそれぞれ記録されている(Abe and Kobata, 1974)。今回の標本は全長1536 mmであり、相模湾からの初めての成魚の記録となる。本種は、稚仔期から成魚に至るまでの間に著しい変態をすることが知られている(中村, 1984)。稚魚前期をヒスツリシネラ期(hystricinella stage 19 mm)、稚魚期をアストロダーメラ期(astrodermella stage 100 mm)、稚魚後期をルバレラ期(luvarella stage 600 mm)と呼び、頭部の比率や各鰭の状態が大きく変わる(松原ほか, 1979)。Abe and Kobata (1974)の2個体(全長300 mmと260 mm)は稚魚期から稚魚後期にかけてのステージと考えられるが、今回の成魚と比して鰭条数の計数値には差が見られた(表2)。

採集された時期は8～10月で、暖かい黒潮が卓越する時期に相模湾に偶発的に来遊してきたものと考えられた。インターネットによる自然史標本情報検索で検索したところ、国内で本種の標本は本個体以外に登録されているのは1個体のみであり、体表面や鰭に傷みはあるものの、貴重な標本と考えられる。

謝 辞

標本の輸送に協力いただいた地元漁業者の源春丸・湯浅一春氏、標本処理にご協力いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館魚類ボランティアの皆様、報告の機会を与えていただいた新江ノ島水族館の堀 由紀子館長、堀 一久氏はじめ展示飼育部の諸氏に感謝の意を表する。

引 用 文 献

- Abe, T. 1953. New, rare or uncommon fishes from Japanese waters. II. Records of rare fishes of the families Diretmidae, Luvaridae, and Tetragonuridae, with an appendix (description of a new species, Tetragonurus pacificus, from off the Solomon Islands). *Japanese Journal of Ichthyology*, 3(1): 39–47.
- Abe, T. and T. Kobata. 1974. Records of the young of the luvar, *Luvarus imperialis* Rfinesque-Schmaltz, from Sagami Bay. *UO*, 20: cover and the inside.
- 蒲原稔次, 1950. 土佐及び紀州の魚類. 3+288+48+26pp. 高知県文教協会, 高知.
- 倉田洋二・三村哲夫, 1964. 伊豆諸島の海産生物—稀魚アマシイラ—. 採集と飼育, 26(4): 112–113.
- 丸山 潔, 1971. 岩手県魚類目録. 岩手県水産試験場研究報告, 1: 1–79.
- 松原喜代松, 1955. 魚類の形態と検索I. (vi)+xii+789pp. 石崎書店, 東京.
- 中坊徹次・土居内 龍, 2013. アマシイラ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索: 全種の同定, 第三版. pp.1617, 2215. 東海大学出版会, 東京.
- 中村 泉, 1984. アマシイラ科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, 日本産魚類大図鑑, 和文版, p.216, pl.219. 東海大学出版会, 東京.
- 岡田 彌一郎・松原喜代松, 1938. 日本産魚類検索. (iv)+xi+584pp. 三省堂, 東京.
- Senou, H., K. Matsuura & G. Shinohara, 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence

- of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum, Tokyo*, (41): 389–542.
- 塩垣 優・石戸芳男・野村義勝・杉本 匡, 2004. 改訂青森県産魚類目録. 青森県水産総合研究センター研究報告, (4): 39–80.
- Tyler, J., D. G. Johnson, I. Nakamura and B. B. Collette, 1989. Morphology of *Luvarus imperialis* (Luvaridae), with a phylogenetic analysis of the Acanthuroidei (Pisces). *Smithsonian Contribution to Zoology*, (485): i–vi, 1–78.
- 上田吉幸・前田圭司・嶋田 宏・鷹見達也編, 2003. 新北のさかなたち. xxviii+645pp. 北海道新聞社, 札幌.
- Ueno, T, 1965. On two rare pelagic fishes, *Luvarus imperialis* and *Rachycentron canadum*, recently captured at Yoichi, Hokkaido. *Japanese Journal of Ichthyology*, 12(3/6):99–103.
-

崎山 直夫：新江ノ島水族館

瀬能 宏：神奈川県立生命の星・地球博物館